

周波数逼迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成21年度事前評価結果

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
デジタル電波利用における電波雑音の状況に関する国際標準化	H21～24	<ul style="list-style-type: none"> ・電波雑音の規定や測定技術は今後重要性を増すと考えられる。長期的取組が望まれる。 ・我が国の電波雑音の状況をITU-R等へ報告するとともに、電波雑音の測定法について提案することは重要であり、積極的に推進してほしい。 ・電波雑音のこれまでの調査、研究をうまくまとめ、ITU-R報告のためのステップとして4年間かけて、目的達成を目指してほしい。 	4.0
700MHz帯等を用いた移動通信技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準化活動を活発化するための基盤作りをしてほしい。 ・国際標準化が急がれる分野であり、我が国の積極的な貢献が強く望まれている。 ・安全運転支援のための車車間通信、路車間通信技術は今後、安全運転を支援する技術として重要であり、ITU-R勧告への反映に向けて、戦略的に取り組んで欲しい。 	4.1
IMT-Advancedの無線インターフェイス技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性は十分高く、継続的な取り組みも強く要請したい。 ・より一層の周波数有効利用が可能になるIMT-Advancedの実現に向けて、わが国の技術の国際標準化活動への貢献を行ってほしい。 ・IMT-Advancedの関連標準化は、我が国の通信産業さらにそのアプリケーション産業に取って戦略的に重要である。力を入れて推進すべき。 	4.4
海上移動業務VHF帯データ通信方式の国際標準化	H21～23	<ul style="list-style-type: none"> ・VHF帯データ通信に必要な詳細パラメータを含む通信方式を、安価で、安定・高速に行うことは重要である。 ・国際VHFをデータ通信チャンネルとして有効に活用し、海難事故防止の改善を図ることは極めて重要である。標準化の加速を図る必要性が大きい。 ・国際標準化が進行している分野であり、我が国としても標準化に貢献すべき。 	4.3